

(10) 中学校技術家庭科部会

会長 橋田 年弘(県立中村中)
副会長 中山 文 (西土佐中)
事務局 田村 悟 (中筋中)

1. 研究主題 「実践的な姿勢を持ち、主体的・対話的に学べる生徒の育成」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和3年 5月6日 (木)	四万十市教育研究大会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村南小学校	
7月30日 (金)	教科部会 研修会 (家庭分野) 年間計画と実践交流 (技術分野) 実践交流「クロムブックの活用」	中村中学校	家庭 5名 技術 5名
8月23日 (月)	教科部会 研修会 「双方向プログラミングの使用方法、 課題設定」 講師：細木 寛志 先生(宿毛工業高校教諭)	宿毛工業高校	コロナ の為開 催中止

3. 教科部会での取り組み

四万十市において、技術家庭科は免許外での教科担当が多く、専科での担当が技術2名、家庭科2名である。そのため、夏季研修では、実践交流と共に各校での課題について話し合い専科からアドバイスを行う形で実施した。また、今年度よりクロムブックの活用が始まったのを受け、クロムブックを使った授業形態について研修・計画を行った。

3-1 技術部会

技術部会では、クロムブックの各校での活用状況、各学年の年間計画について情報交換を行った。各校で取り組んで良かった内容、教材について情報交換できたことで、2学期からの授業展開に生かせる内容のものになった。また、今年度より活用がスタートしたクロムブックを使った授業展開や、各教科において利用できるクロムブックの活用方法などの意見交換、使用方法の共有が出来、2学期からの実践に役立つものになった。

免許外が多いという事で、技術分野では、「プログラミング」について、どうしていくのかを情報交換し、実際に使える教材の内容についても研修を行った。県の行った「免許外研修」で使用した教材の活用方法や、「Scratch」というオンラインプログラミングソフトの活用についても協議を行った。

技術科部会後の感想

- ・クロムブックの活用の方法などいろいろ知れて良かった。
- ・各校の課題設定や、年間計画を知ること、これからの授業に取り入れることができる内容が知れて良かった。
- ・「双方向プログラミング」の研修を開催してほしい。

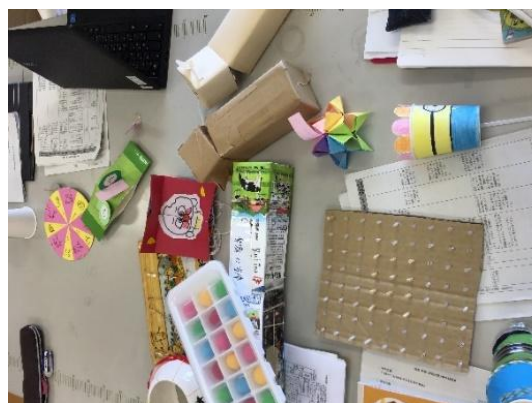


3-2 家庭分野

家庭科部会では、各校の年間計画について情報交換を行った。家庭科部会も免許外が多く、各校の実習内容や、授業実践についての交流を行うことで2学期からの実践に活かせる部会となった。特に、評価の観点についてや、クロムブックをどのような場面で取り入れて活用し、評価するかなどを協議することができた。

家庭科部会後の感想

- ・細かい指導法を知ることができ、事前に評価する箇所を決めて取り掛かるなど、具体的な評価方法がわかった。また、具体物（ワークシートなど）をたくさん見せていただき、大変勉強になった。
- ・被服実習で実際に作っている防災リュックを見せてもらい、工夫点や評価方法などを教えてもらい参考になった。
- ・三観点の評価の見取り方を参考になった。
- ・クロムブックを使った授業は行っていなかったが、実際にすぐに使えそうなものだったのでICTの活用を取り入れてみたいと思った。
- ・探求課題で生徒の生活に活かせる課題の出し方を参考にしたいと思った。
- ・興味をひきつけないについてこない子どものために視覚に訴えるような課題設定が大切だと感じた。



4. 今年度の成果と課題

四万十市において、技術家庭科は免許外での教科担当が多い中、夏季研修で、教科部会を持たなかったことは、各校での授業力向上に繋がった。専科から、年間計画や評価方法など資料を基に話ができる機会はこれからも必要であると感じる。

特に、実習を伴う教科であるため、実習を踏まえた研修会の実施の必要性も感じた。

今年度は、技術領域「双方向プログラミング」の研修を予定していたが、コロナの拡大により研修中止になり、大変残念である。来年度以降も、継続的に夏季研修会、実習を伴う研修を企画していく必要があるように感じている。

